

青少年育成センターだより

第215号 2025.10.1

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター



0835-25-2922

こどもに伝えたい言葉（甲子園で聞かれた言葉）

今年の夏の甲子園の試合を観て、選手たちの姿に勇気や元気をもらい、感動された方も多いのではないでしょうか。若者が懸命に一つのこと取り組んでいる姿は、本当に美しいものですね。

試合後、甲子園をあとにしたチームの指導者が教え子に語りかけた、「ラストミーティング」が朝日新聞（2025.9.4）に紹介されていました。指導者が教え子（選手）たちに語った言葉の中に、どんな思いを持って指導してきたのか、これからどんな人生を送ってほしいのかなどが読み取れます。

○ 私は高校生の時、（仙台育英）学生コーチでした。人に厳しくするのはとても難しいということを高校2年生から3年生の夏に感じていました。いつも孤立していたから。厳しいことを言っても、なかなか人には響かないから。かといって「何かを変えよう」とか、「打破しよう」と思ったら、厳しさっているよ。歯を食いしばんなくっちゃいけなかったり、今まで良いとされてたこととかにメスを入れていかなきゃいけないわけだから。その労力というのは、これは大人でも大変です。職場とかで、今までのことを何か変えようと思ったときには必ず反発が出たり、「今までいいじゃないか」「この心地良さの中でやればいいじゃないか」という声は出たりする。それを（主将の佐々木）義恭を中心に、本当によくえてたと思いました。義恭は苦しかったんじゃないかな。今日の最後もね、アルプス席にあいさつしに行くときに義恭が「ちゃんと最後までやれよ」と言っていたことが、多分1年間の象徴だと思います。

仙台育英（宮城） 須江 航監督

○ 今後、しんどいことがまた待っていると思うけど、乗り越えた先に良い思いができるから。しんどい思いして、耐えて乗り越えて、自信を持って、人に感謝して周りの声に流されず強くやっていってほしい。今までやってきたことがうそじゃなかったと、自信がついたと思う。また次の目標に向かってつらい思いをして、そこで結果が出なかった場合も、5年後、10年後、20年後って、死ぬまでにどっかで報われたら俺はそれでいいと思う。この気持ちを一日も忘れてほしくないな。

東大阪大柏原 土井健大監督

○ 悔しいのは分かるけど、今この時だからこそ人に感謝しよう。感謝の言葉を伝えよう。申し訳ない結果の報告になってしまった。けど、君たちの勝利を信じて、最後のアウト1個まで信じて応援してくれた人たちのために、感謝の気持ちをもって、きちんとした姿勢を忘れずにこれからも取り組んでください。3年生は悔いしか残っていないと思うけど、それよりも周りの人に対する感謝の気持ちを持ってください。「この悔しさがあったからまた一つ成長できて今につながっています」と言えるような取り組みを、今後頑張ってもらえたたらと思います。

神村学園（鹿児島）小田大介監督

甲子園に出場した監督には、大きな責任と覚悟があったと思います。野球が上手くなり、試合で勝ちたい、そして甲子園で戦いたいという気持ち、そんな選手たちの思いを叶えるために、選手一人一人と向き合ってこられたことでしょう。その監督から発せられる言葉には重みがあります。野球だけでなく、こどもの指導に関わっている人にとってとても参考になる言葉なのではないでしょうか。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村